

Ⅱ 障害のある人の動向

1 各種手帳の交付状況

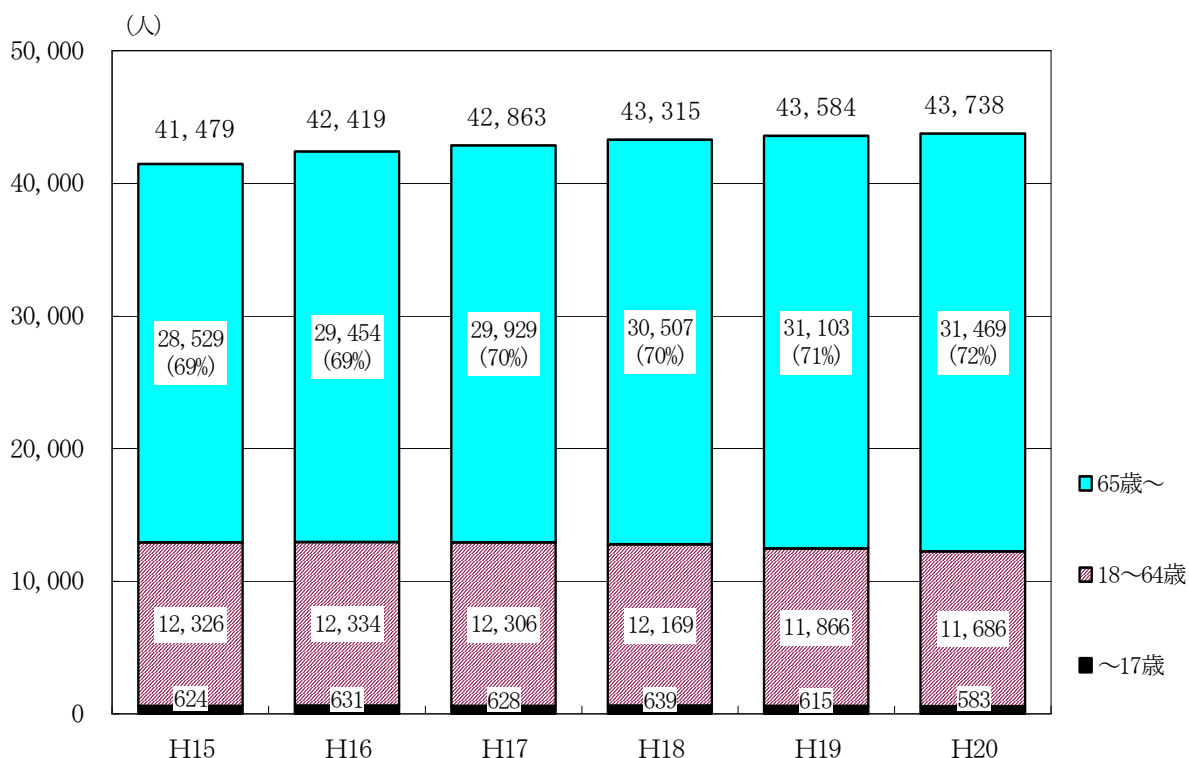
(1) 身体障害者手帳

平成 20 年 3 月 31 日現在の身体障害者手帳の交付者数は 43,738 人で、県人口^(※1)の約 5.6%を占めています。また、交付者数に占める 65 歳以上の人の割合は約 7 割を占め、増加傾向にあります。(図Ⅱ-1-1 参照)

また、交付者総数のうちおよそ半数が 1 級～2 級の重度の障害で、近年減少傾向にあります。(図Ⅱ-1-2 参照)

障害部位別では、交付者数のうち 6 割近くが肢体障害ですが、近年は心臓や腎臓など内部障害が増加傾向にあります。(図Ⅱ-1-3 参照)

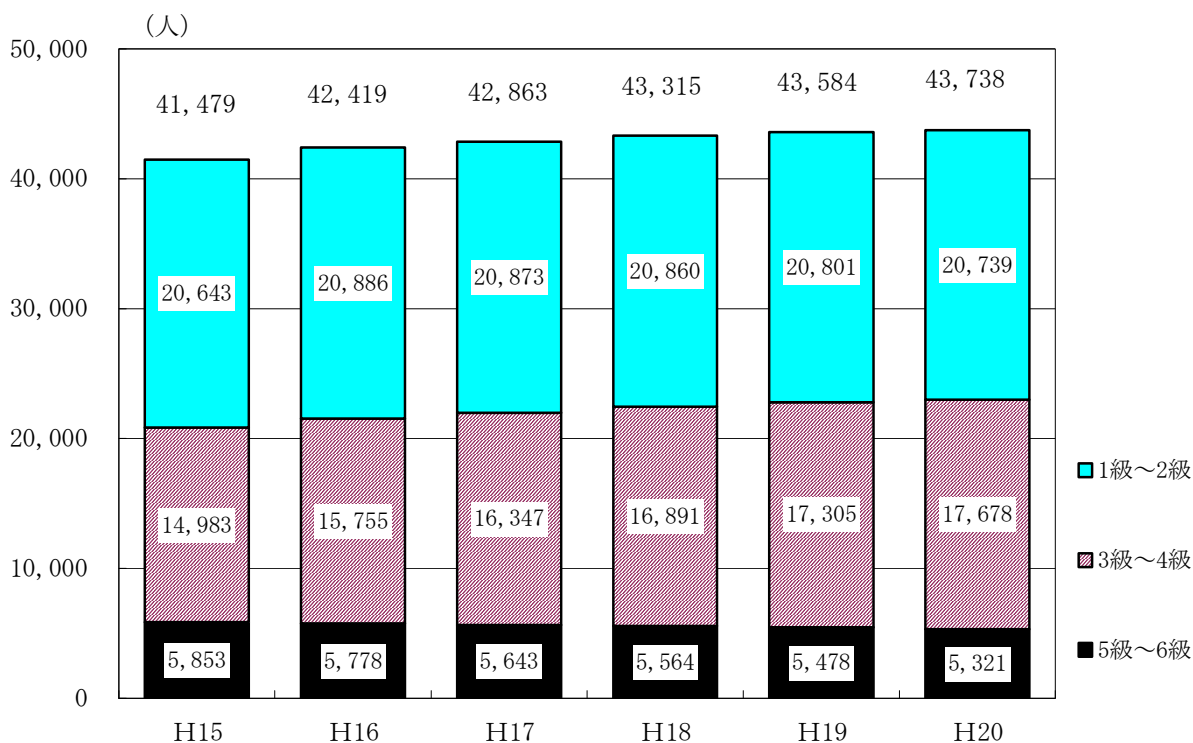
■ 図Ⅱ-1-1 年齢別交付者数の推移 (各年 3 月 31 日現在)



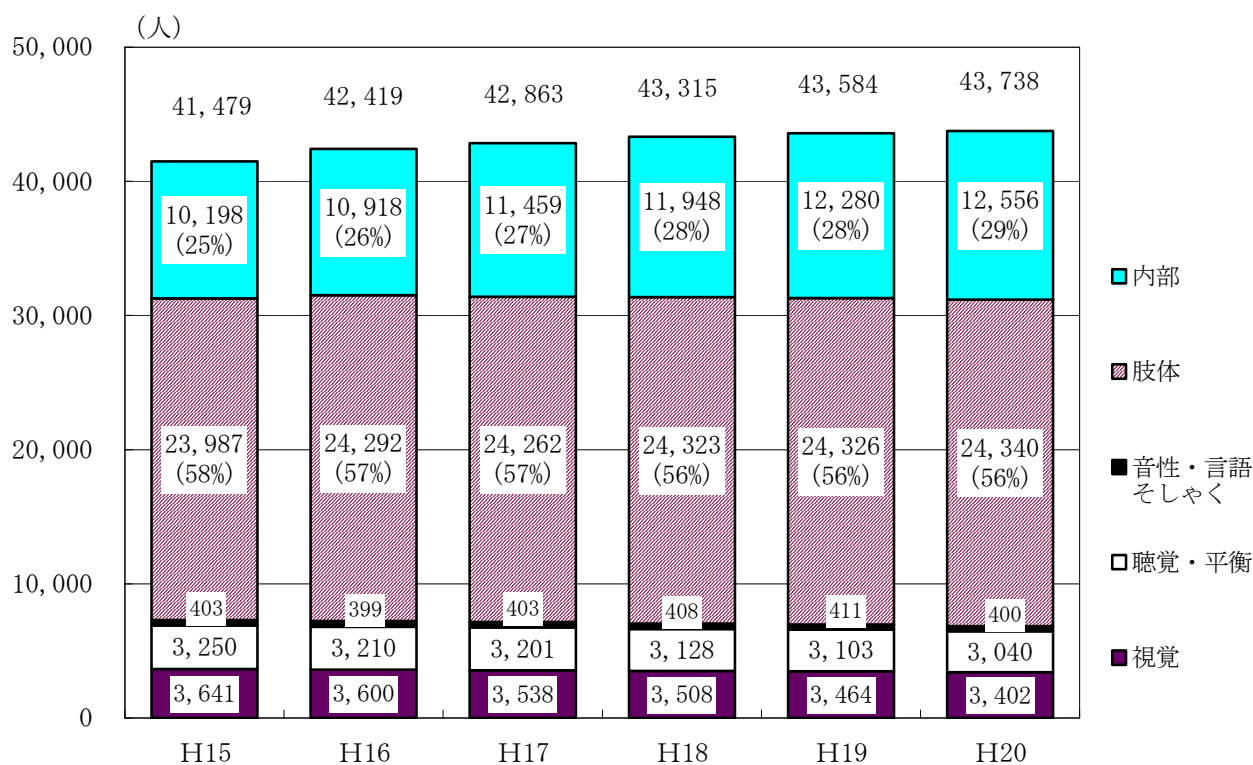
※1 県人口

平成 20 年 3 月 31 日現在 住民基本台帳登録数 784,038 人

■ 図Ⅱ－１－２ 級別交付者数の推移（各年３月３１日現在）



■ 図Ⅱ－１－３ 障害部位別交付者数の推移（各年３月３１日現在）



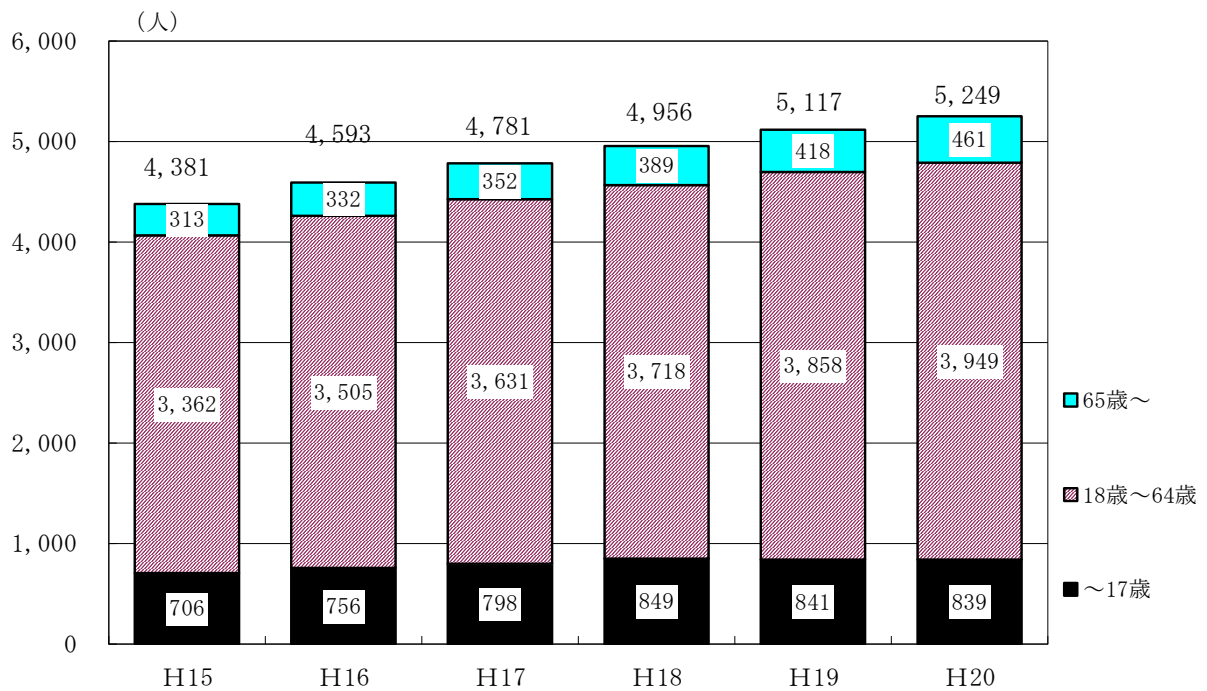
(2) 療育手帳

平成20年3月31日現在の療育手帳の交付者数は、5,249人で増加傾向にあります。年齢別で見ると、18歳以上が増加しています。(図Ⅱ-1-4参照)

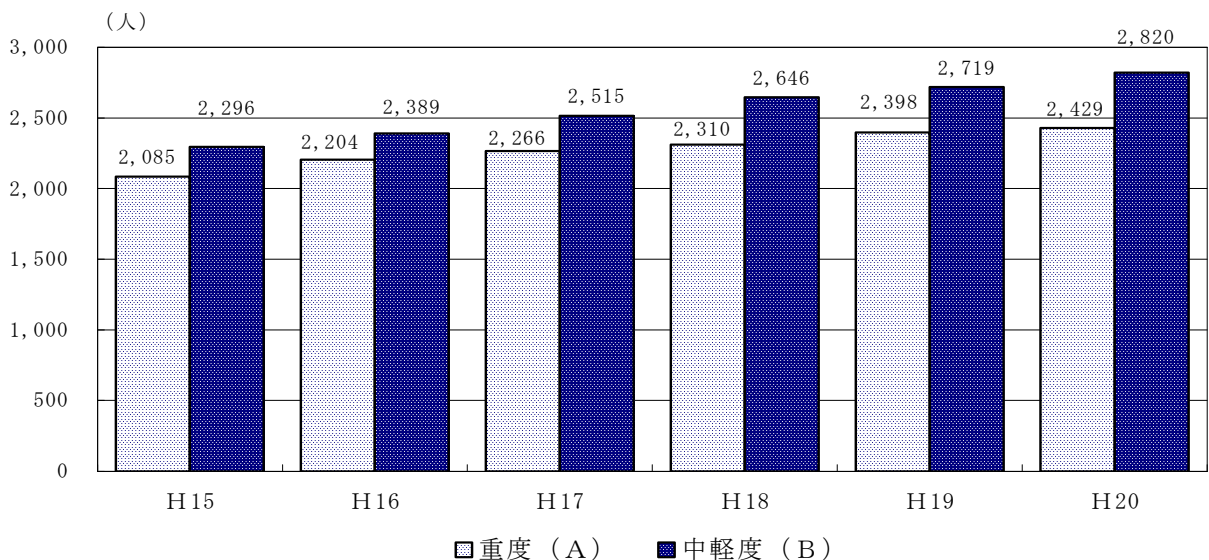
これは、JRなどの運賃割引制度が始まったことなどにより、療育手帳制度が浸透してきたため、今後も増加傾向が続くことが予想されます。

また、障害の程度別の交付者数では、中軽度(B)が重度(A)より多い状況となっています。(図Ⅱ-1-5参照)

■ 図Ⅱ-1-4 年齢別交付者数の推移 (各年3月31日現在)



■ 図Ⅱ-1-5 障害程度別交付者数の推移 (各年3月31日現在)

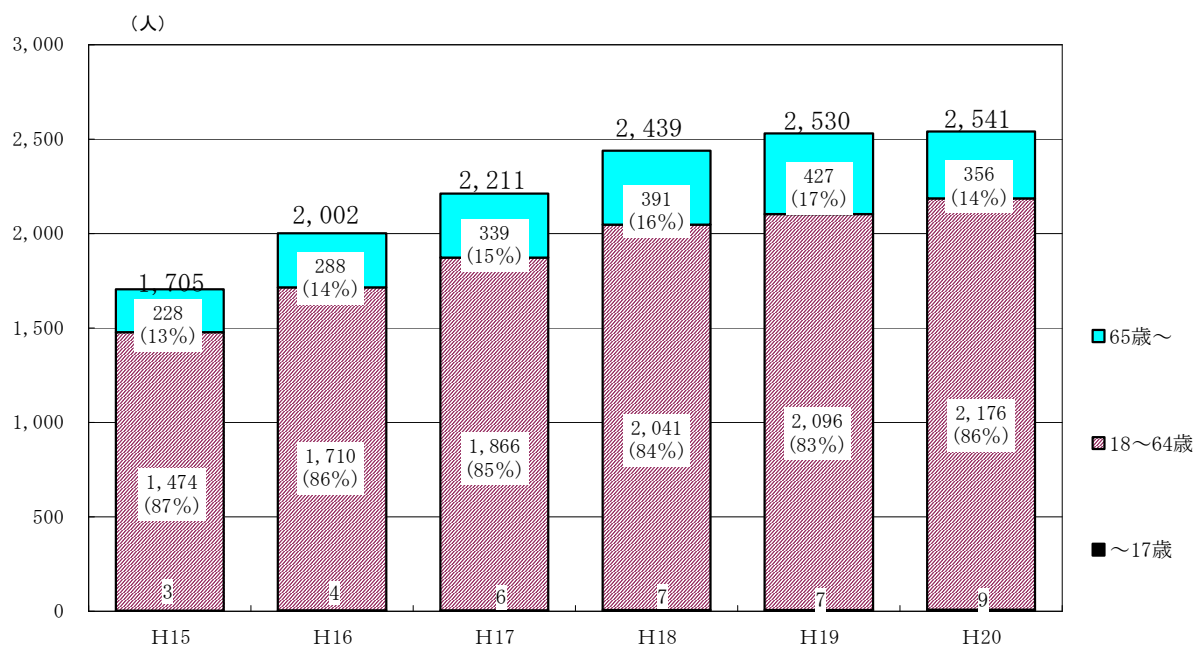


(3) 精神障害者保健福祉手帳

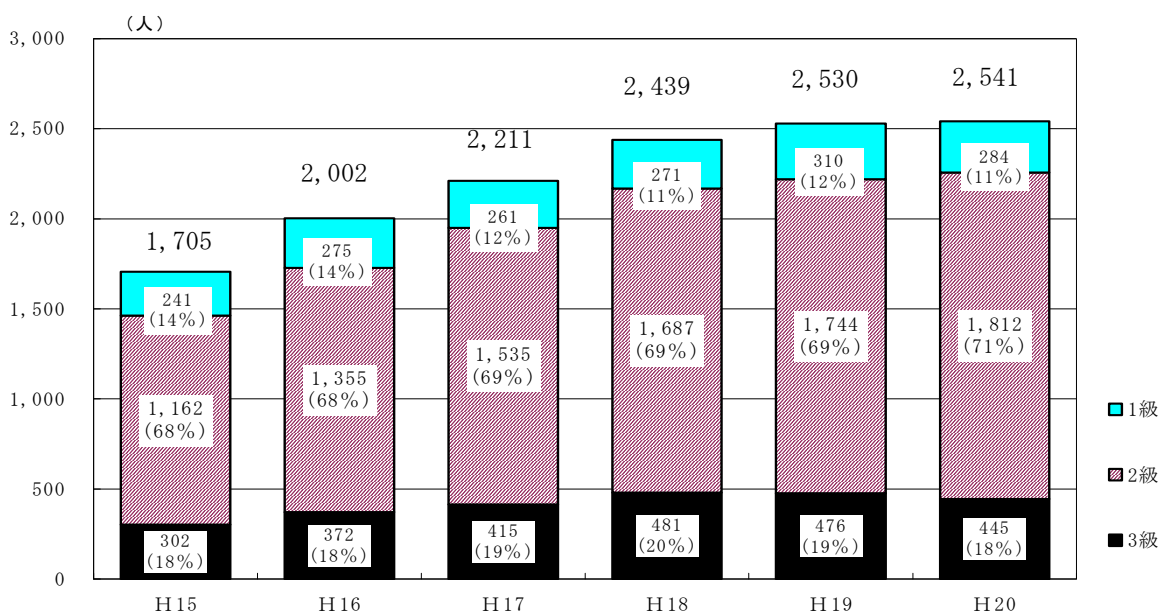
平成 20 年 3 月 31 日現在の精神障害者保健福祉手帳の交付者数は 2,541 人で、増加傾向にあります。今後も、精神障害者に対するサービスの提供体制の整備などにより、増加が見込まれます。(図Ⅱ-1-6 参照)

等級別では、2 級の占める割合がほぼ 7 割となっています。(図Ⅱ-1-7 参照)

■ 図Ⅱ-1-6 年齢別交付者数の推移 (各年 3 月 31 日現在)



■ 図Ⅱ-1-7 級別交付者数の推移 (各年 3 月 31 日現在)



(4) 障害保健福祉圏域別に見た障害者手帳の交付状況

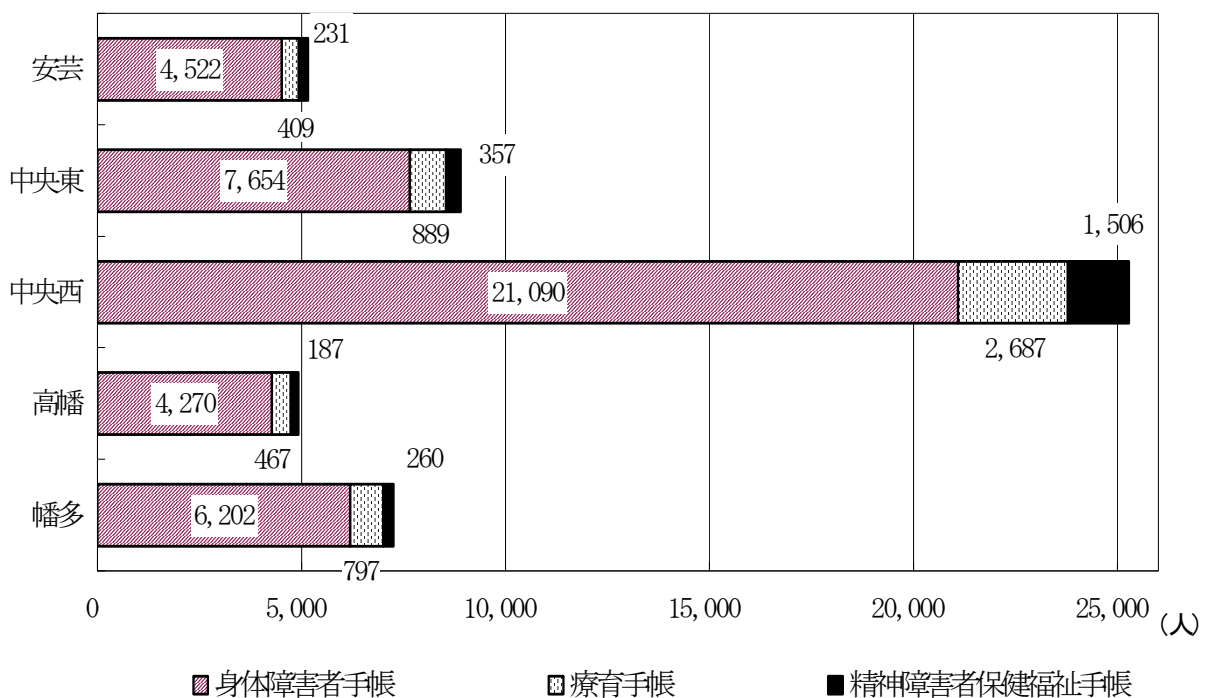
平成20年3月31日現在の本県における障害者手帳の延べ交付者数は51,528人で、県人口の約6.6%を占めています。

なかでも、人口の多い中央西圏域における交付者数が、全体の約半数を占めています。

■ 表Ⅱ－1－1 障害保健福祉圏域別の各種手帳交付状況（H20.3.31現在）

	身体障害者手帳		療育手帳		精神障害者保健福祉手帳		合計	
	交付者数	%	交付者数	%	交付者数	%	交付者数	%
安芸	4,522	10.3	409	7.8	231	9.1	5,162	10.0
中央	28,744	65.7	3,576	68.1	1,863	73.3	34,183	66.3
中央東	7,654	17.5	889	16.9	357	14.0	8,900	17.3
中央西	21,090	48.2	2,687	51.2	1,506	59.3	25,283	49.1
うち高知市	15,216	34.8	2,065	39.3	1,310	51.6	18,591	36.1
高幡	4,270	9.8	467	8.9	187	7.4	4,924	9.6
幡多	6,202	14.2	797	15.2	260	10.2	7,259	14.1
合計	43,738	100.0	5,249	100.0	2,541	100.0	51,528	100.0

■ 図Ⅱ－1－8 障害保健福祉圏域別の各種手帳交付状況（H20.3.31現在）

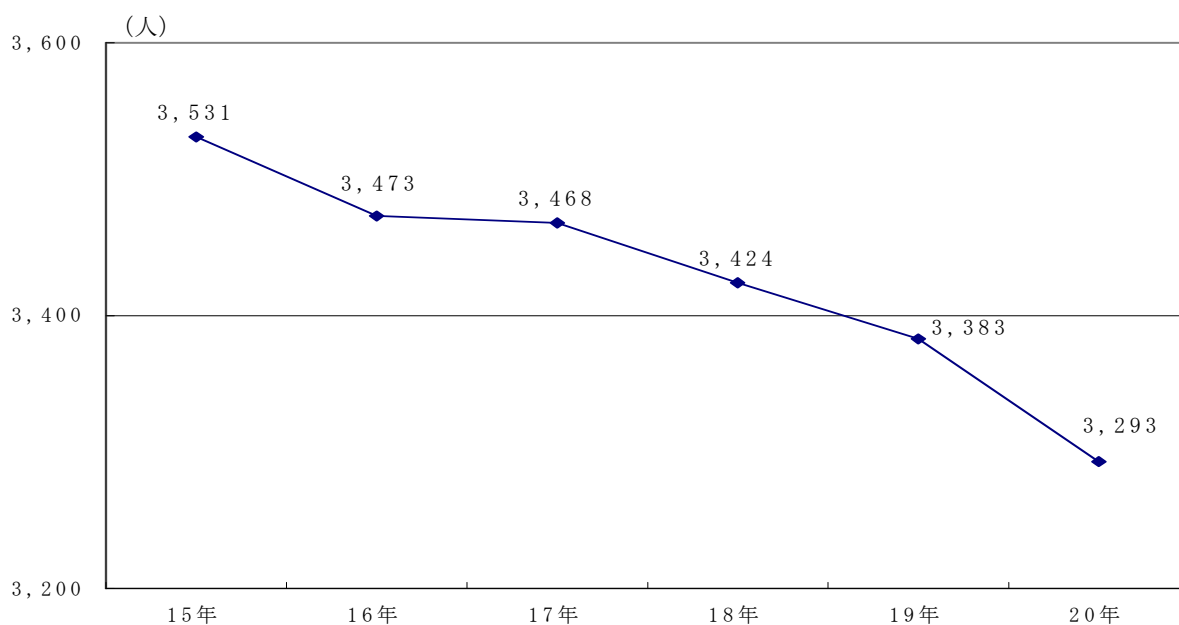


2 精神科病院入院患者数等

県内精神科病院の入院患者数は、平成 15 年以降、減少傾向にあります。（図Ⅱ－2－1 参照）

平成 20 年 7 月 31 日現在の県内精神科病院入院患者は、3,293 人で、このうち約 53% にあたる 1,760 人が 65 歳以上の患者です（県内の患者に限る）。（表Ⅱ－2－1 参照）

■ 図Ⅱ－2－1 入院患者数の推移（各年 7 月末時点）



■ 表Ⅱ－2－1 圏域別入院患者数（H20年7月末時点）

圏域	病院数	入院患者数		
			うち 65 歳以上	
安芸	3	362	190	
中央	17	2,238	1,249	
	中央東	4	492	266
	中央西	13	1,746	983
高幡	1	313	175	
幡多	2	341	146	
小計	23	3,254	1,760	
県外の患者	—	39		
合計	23	3,293		

（注）入院患者の圏域は、住所地で分けています。

3 特別支援学校（国・公立）・特別支援学級在籍児童生徒数等

特別支援学校に在籍する児童生徒の中では、知的障害の児童生徒が最も多く、全生徒数の約74%となっています。また、卒業生の進路状況では、毎年、卒業生の約6割が福祉施設等を利用しています。

■ 表Ⅱ－3－1 特別支援学校（国・公立）障害種別児童生徒数（H20.5.1現在）

		視覚障害	聴覚障害	病弱	肢体不自由	知的障害	計
小学部		4	9	10	46	99	168
中等部		1	8	9	33	169	220
高等部	1年	4	3	6	14	96	123
	2年	2	2	3	10	99	116
	3年	3	4	3	15	85	110
	小計	9	9	12	39	280	349
合計		14	26	31	118	548	737

■ 表Ⅱ－3－2 特別支援学級児童生徒数（H20.5.1現在）

	弱視	難聴	言語障害	病弱・ 身体虚弱	肢体 不自由	知的 障害	情緒 障害	計
小学校	17	22	4	25	64	322	205	659
中学校	4	6	0	8	17	93	90	218
合計	21	28	4	33	81	415	295	877

■ 図Ⅱ－３－１ 特別支援学校卒業生の進路状況

